



県指定天然記念物
長徳寺の龍王桜
(芸濃町雲林院)

バス…近鉄津新町駅から
「市場」行き、終点下車
徒歩10分

車…伊勢自動車道芸濃IC
から20分

市北西部の錫杖ヶ岳に源を発する安濃川が、上流部の溪谷を縫って平野部にかかる辺り、芸濃町忍田地区の一角に長徳寺はある。この寺の境内の本堂前庭に植えられているのが、県指定天然記念物の龍王桜である。

桜といえばこの季節、市内各所で見ごろを迎えるソメイヨシノが一般的に知られているが、ここの桜はもう少し遅く、4月中・下旬に開花を迎えるフゲンザクラ（普賢桜）である。若葉を交えて開花するその咲き方の特徴を普賢菩薩が乗る象になぞらえて「鼻（花）より先に歯（葉）が出る」ことからその名がある。広く樹枝を伸ばす低木状の桜は、樹高3m、枝張りは東西5m、南北4mで、短い枝が多いことが目立つ。花は5弁で、直径4cmほどの淡紅色の花を咲かせる。長徳寺は俗称龍王寺とも呼ばれ、その昔、寺の近くの門前が淵にすむ龍が、桜の種と龍のうろこを寺の住職に贈って日照りを潤す雨ごいの方法を教えたという「龍王伝説」が残る。龍王桜は、こうした伝説を今に伝えるかのように、境内の一角を淡紅色に染めている。

門前が淵の溪谷には新緑も芽吹き、龍王桜の名を冠したマラソン大会も開かれるこの季節、今に残る龍王伝説と新緑の溪谷美を求め、安濃川上流域に足を運んでみてはいかがであろう。

（「広報津」平成20年4月1日号）



4月中・下旬に開花する龍王桜